

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年12月21日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年12月21日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【共用プール建屋の計装用空気系除湿装置吸着筒の排気系の不具合について】 当直員が、共用プール建屋の計装用空気系圧力低の警報発生を確認。 現場を確認したところ、除湿装置本体吸着筒排気系の消音器からの空気が吹き止まらないことから、消音器上流側の切替弁の不具合と推定。 除湿装置をバイパス運転としたことにより、計装用空気系の圧力と警報の復帰を確認。 また、除湿装置出入口弁を全閉したことにより、空気漏えいの停止を確認。 今後、除湿装置を点検予定。</p>	GⅢ	12月16日
2	<p>【5号機所内用空気圧縮機の吐出空気温度スイッチ不良について】 協力企業作業員が、5号機所内用空気圧縮機の吐出空気温度スイッチの点検にて、動作値が設定値より著しく小さいことを確認。 温度検出器側からの出力値は、周辺温度と同等だったため、温度検出器側に異常はないが、温度スイッチでの調整が不能なため、温度スイッチに異常があると判断。 現在、6号機より所内用空気を供給しているため、問題なし。 今後、当該温度スイッチを交換予定。</p>	GⅢ	12月16日
3	<p>【既設多核種除去設備(B)のクロスフローフィルタドレン配管からの漏えいにつて】 当直員が、既設多核種除去設備(B)のクロスフローフィルタスキッド2-2漏えいの警報発生を確認。 現場確認の結果、水たまりを発見し、上部にあるクロスフローフィルタのドレン配管から滴下していたことを確認。 ドレン弁を閉操作し滴下の停止を確認。 その後、水たまりの拭き取りを実施済み。 現在は、弁ハンドルを取り外し、ドレン配管端部へ閉止プラグを取り付け済み。 作業員が当該弁近傍を通過時に弁ハンドルに接触し、漏えいしたと推定。 今後、再発防止対策を検討。</p>	GⅢ	12月16日